

思い込み？ 印象操作？

高原 明生

最近のマスメディアの報道ぶりを見ていて、気になることがいくつかある。ちょっと違うんじゃないかなあ、事実誤認じゃあるまいか、そう思われる点がある、奇妙なことに日本の多くのマスメディアに共通して現れたように見受けられる。

例えば、6月12日のトランプと金正恩とのシンガポール会談の報道。日本の多くの全国紙やテレビ局は、トランプ大統領が北朝鮮の体制保証を約束したと報じた。私は朝鮮語がわからないので、北朝鮮側の公式報道でどう表現されているかは知らない。しかし米国政府が発表した共同声明や会談後のトランプ大統領の記者会見を見る限り、彼

が北朝鮮の体制保証を約束したという内容はない。では、共同声明には何と書かれているのか。「トランプ大統領は朝鮮民主主義人民共和国に安全の保証を提供することを約束した」。これはつまり、米国は北朝鮮を攻撃しないことを約束したと解釈するのが自然だろう。それと体制保証を約束することとは、もちろん意味が異なる。

私もあるテレビ局の討論番組に出た際、「体制保証を約束するとトランプは言っていないよ」とディレクターとの打ち合わせでは申しておいた。それなのに本番では、やはり「トランプ大統領は北朝鮮に体制の保証をする約束」をしたと紹介さ

れた。なぜ敢えて間違いを、まあよく言えば拡大解釈を報道するのだろうか？ いくら首をひねっても理解できない。

もう一つ例を挙げれば、「中国の提唱する経済圏構想である『一帯一路』というフレーズがある。やはり、日本の多くの全国紙もテレビ局も使っているように見受けられる（実は学者もだが）。しかし、一帯一路は本当に経済圏構想なのだろうか。

そもそも経済圏とは何か。大辞林によると、「経済活動が一定の独立性をもって営まれる地理的範囲」なのだとか。かなり曖昧な概念ですね。経済圏構想と言うと何となくわかったような気になるが、一帯一路の実態について人々に誤ったイメージを抱かせることになりかねない。中国の研究者に経済圏構想なのかと聞いても、何のこっちゃという顔をされるだけだ。

それでは、一帯一路をどのように理解すればよいのか。中国政府によるとその基本的な考え方は、インフラ建設によって中国と欧州を結び、陸路や海路の沿線地帯を発展させ、投資や貿易を円滑化する制度の共有などを進めるとのことだ。しかし、それは提示された理念の話。他所でも言っていることだが、一帯一路を正しく理解するに

はその理念と具体を分けることが重要になる。すなわち、理念としての一帯一路は言わば星座のようなものであって、魅力的だが実体はない。

実際に存在するのは一つ一つの星々、すなわちプロジェクトである。アジアインフラ投資銀行(AIIB)も一つの星だともなすことができる。我々は一つ一つのプロジェクトを吟味して、それが採算性もあり、軍事利用もされないような良い星であれば協力すればよい。

実は、中国人は魅力的な星座を考え出すのが得意だ。改革開放もその一つ。改革開放とは政策なのか、政策の方向性なのか、社会の変化なのか、やはり曖昧だ。改革政策の象徴とも言える農家生産請負制を、改革開放の出発点とされる第11期中央委員会三中全会のはっきりと否定している。ちなみに、改革開放という四文字の概念が人民日報に初めて掲載されたのはその6年後、1984年のことだ。それも、その年の掲載は2回だけ。

改革開放は鄧小平の、そして一帯一路は習近平の権威と権力の象徴なのだと考えればわかりやすい。輝いて見える（気がする）星座に幻惑されることが大切だ。今年は改革開放40周年？ え、本当にそうですか？

東京大学公共政策大学院長